

米国農務省穀物等需給報告(2026 年 10 月9日発表のポイント)

令和8 年 10 月 13 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、10 月9日(現地時間)、2026/27 年度の6回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し等を発表した。その概要は以下のとおり。

－2026/27 年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)(※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量:29 億 4,432 万トン(対前年度比 2.5%減)↑
- ② 消費量:29 億 8,067 万トン(対前年度比 0.3%増)↓
- ③ 期末在庫量:7億 8,784 万トン(対前年度比 4.4%減)↑
期末在庫率:26.4%(対前年度差 1.3 ポイント減)↑

【主な品目別の動向】(※矢印横は 200 万トン以上の増減のあった国等。)

小麦:米国の生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことを受け、前月からわずかに上方修正された。世界全体の生産量は、カナダ及びトルコで上方修正されたものの、EU(主にドイツ)で下方修正されたことを受け、前月からわずかに下方修正された。前年度からも減少する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:8億 2,239 万トン(対前年度比 2.6%減)↓…前年度に比べ、インド等で増加、米国、EU、アルゼンチン、豪州、カザフスタン、カナダ、ロシア、ブラジル等で減少
- 2 消費量:8億 2,790 万トン(対前年度比 0.6%増)↑…前年度に比べ、インド、EU 等で増加
- 3 期末在庫量:2億 7,604 万トン(対前年度比 2.0%減)↓…前年度に比べ、インド、ロシア、ウクライナ等で増加、EU、米国、中国等で減少(前月に比べ、ロシア等で上方修正)

期末在庫率:33.3%(対前年度差 0.9 ポイント減)↓

とうもろこし:米国の生産量は、単収が上方修正されたことを受け、前月から上方修正された。世界全体の生産量は、主に EU、フィリピン、メキシコで下方修正されたものの、米国で上方修正され、前月から上方修正された。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:12 億 9,375 万トン(対前年度比 2.8%減)↑…前年度に比べ、中国等で増加、米国、アルゼンチン、EU、ブラジル等で減少(前月に比べ、米国で上方修正、EU 等で下方修正)
- 2 消費量:13 億 2,047 万トン(対前年度比 0.1%増)↑…前年度に比べ、中国等で増加、EU 等で減少(前月に比べ、米国等で上方修正、EU 等で下方修正)
- 3 期末在庫量:2億 8,044 万トン(対前年度比 8.7%減)↑…前年度に比べ、ウクライナ等で増加、中国、米国、ブラジル等で減少(前月に比べ、米国等で上方修正)

期末在庫率:21.2%(対前年度差 2.0 ポイント減)↑

コメ(精米):米国の生産量は、単収が下方修正されたことを受け、前月からわずかに下方修正された。世界全体の生産量は、フィリピン、パキスタン、ロシアで下方修正され、前月から下方修正された。前年度からも減少する見通し。世界の消費量は、前月から下方修正されたものの、前年度からは増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:5億 3,308 万トン(対前年度比 2.3%減)↓…前年度に比べ、インド等で減少
- 2 消費量:5億 3,880 万トン(対前年度比 1.1%増)↓…前年度に比べ、インド等で増加
- 3 期末在庫量:1億 9,850 万トン(対前年度比 2.8%減)↑…前年度に比べ、インド等で減少
期末在庫率:36.8%(対前年度差 1.5 ポイント減)↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国の生産量は、単収が上方修正されたことを受け、前月から上方修正された。世界全体の生産量は、インド、EU の生産量が下方修正されたものの、米国の生産量が上方修正され、前月から上方修正された。前年度からも増加する見通し。世界の消費量は、前月から下方修正されたものの、前年度からは増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るものの、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:4億 4,270 万トン(対前年度比 3.1%増)↑…前年度に比べ、米国、ブラジル等で増加
- 2 消費量:4億 4,218 万トン(対前年度比 2.3%増)↓…前年度に比べ、米国、ブラジル、中国等で増加
- 3 期末在庫量:1億 2,428 万トン(対前年度比 0.5%減)↑
期末在庫率:28.1%(対前年度差 0.8 ポイント減)↑

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2026年10月 9 日発表)

【穀物】 (単位：百万トン)

項目 \ 年度	2024/25	2025/26 (見込み)	(予想)	2026/27		(参 考) 2012/13
				前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	2,858.26	3,018.84	2,944.32	▲ 2.5%	0.2	2,299.4
消費量	2,877.67	2,970.69	2,980.67	0.3%	▲ 1.1	2,287.4
期末在庫量	776.05	824.20	787.84	▲ 4.4%	9.5	480.3
期末在庫率	27.0%	27.7%	26.4%	▲ 1.3	0.3	21.0%
小麦						
生産量	799.06	844.06	822.39	▲ 2.6%	▲ 0.04	660.8
消費量	808.43	822.90	827.90	0.6%	1.2	680.3
期末在庫量	260.40	281.55	276.04	▲ 2.0%	▲ 0.3	180.6
期末在庫率	32.2%	34.2%	33.3%	▲ 0.9	▲ 0.1	26.5%
粗粒穀物						
生産量	1,517.05	1,629.13	1,588.85	▲ 2.5%	1.0	1,162.6
消費量	1,538.31	1,614.72	1,613.97	▲ 0.05%	▲ 1.4	1,141.9
期末在庫量	324.03	338.43	313.31	▲ 7.4%	8.3	176.1
期末在庫率	21.1%	21.0%	19.4%	▲ 1.5	0.5	15.4%
とうもろこし						
生産量	1,234.98	1,330.62	1,293.75	▲ 2.8%	2.8	903.3
消費量	1,253.16	1,319.10	1,320.47	0.1%	0.2	880.6
期末在庫量	295.64	307.16	280.44	▲ 8.7%	8.3	145.5
期末在庫率	23.6%	23.3%	21.2%	▲ 2.0	0.6	16.5%
コメ(精米)						
生産量	542.16	545.65	533.08	▲ 2.3%	▲ 0.8	476.0
消費量	530.94	533.06	538.80	1.1%	▲ 0.8	465.2
期末在庫量	191.63	204.22	198.50	▲ 2.8%	1.5	123.6
期末在庫率	36.1%	38.3%	36.8%	▲ 1.5	0.3	26.6%

【大豆】

項目 \ 年度	2024/25	2025/26 (見込み)	(予想)	2026/27		(参 考) 2012/13
				前年度比	前月差	
生産量	428.11	429.19	442.70	3.1%	0.4	268.9
消費量	412.06	432.33	442.18	2.3%	▲ 0.3	265.4
期末在庫量	125.97	124.93	124.28	▲ 0.5%	0.3	58.3
期末在庫率	30.6%	28.9%	28.1%	▲ 0.8	0.1	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 9, 2026)
「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
- 2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
- 3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量
- 4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
- 5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
- 6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
- 7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2026年10月 9 日発表)

【穀物】 (単位：百万トン)

項目	年度	2024/25	2025/26 (見込み)	(予想)	2026/27		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		452.42	507.12	465.17	▲ 8.3%	5.6	353.0
消費量		359.89	378.73	374.37	▲ 1.2%	2.6	317.1
輸出量		101.10	119.89	110.92	▲ 7.5%	▲ 0.1	51.6
期末在庫量		67.34	82.93	70.77	▲ 14.7%	7.9	44.2
期末在庫率		14.6%	16.6%	14.6%	▲ 2.0	1.6	12.0%
小麦							
生産量		53.85	54.14	41.74	▲ 22.9%	0.1	61.3
消費量		31.06	31.05	30.18	▲ 2.8%	0.3	37.8
輸出量		22.56	24.71	20.41	▲ 17.4%	▲ 0.7	27.5
期末在庫量		23.26	25.04	20.14	▲ 19.6%	0.6	19.5
期末在庫率		43.4%	44.9%	39.8%	▲ 5.1	1.6	29.9%
粗粒穀物							
生産量		391.51	446.42	418.42	▲ 6.3%	5.5	285.3
消費量		323.53	342.46	339.48	▲ 0.9%	2.3	275.5
輸出量		75.68	92.63	88.03	▲ 5.0%	0.6	20.7
期末在庫量		42.37	56.03	49.37	▲ 11.9%	7.2	23.5
期末在庫率		10.6%	12.9%	11.5%	▲ 1.3	1.6	7.9%
とうもろこし							
生産量		378.27	430.90	407.28	▲ 5.5%	6.0	273.2
消費量		311.24	330.78	330.34	▲ 0.1%	2.5	263.0
輸出量		72.97	87.11	83.82	▲ 3.8%	0.6	18.5
期末在庫量		39.40	53.22	46.97	▲ 11.7%	7.2	20.9
期末在庫率		10.3%	12.7%	11.3%	▲ 1.4	1.7	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.05	6.56	5.01	▲ 23.6%	▲ 0.01	6.3
消費量		5.30	5.22	4.70	▲ 10.0%	—	3.8
輸出量		2.87	2.56	2.48	▲ 3.1%	—	3.4
期末在庫量		1.71	1.86	1.27	▲ 31.7%	▲ 0.01	1.2
期末在庫率		20.9%	23.9%	17.7%	▲ 6.2	▲ 0.1	16.1%

【大豆】

項目	年度	2024/25	2025/26 (見込み)	(予想)	2026/27		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		119.05	115.97	124.15	7.1%	0.7	82.8
消費量		68.84	75.59	78.70	4.1%	0.04	48.6
輸出量		51.50	41.24	46.13	11.9%	0.3	36.1
期末在庫量		8.84	8.58	8.57	▲ 0.1%	0.1	3.8
期末在庫率		7.3%	7.3%	6.9%	▲ 0.5	0.1	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 9, 2026)
「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)
4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2026 年)

● 小 麦 : 6.83 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.15 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 10 月第 1 週末のセツルメント価格】

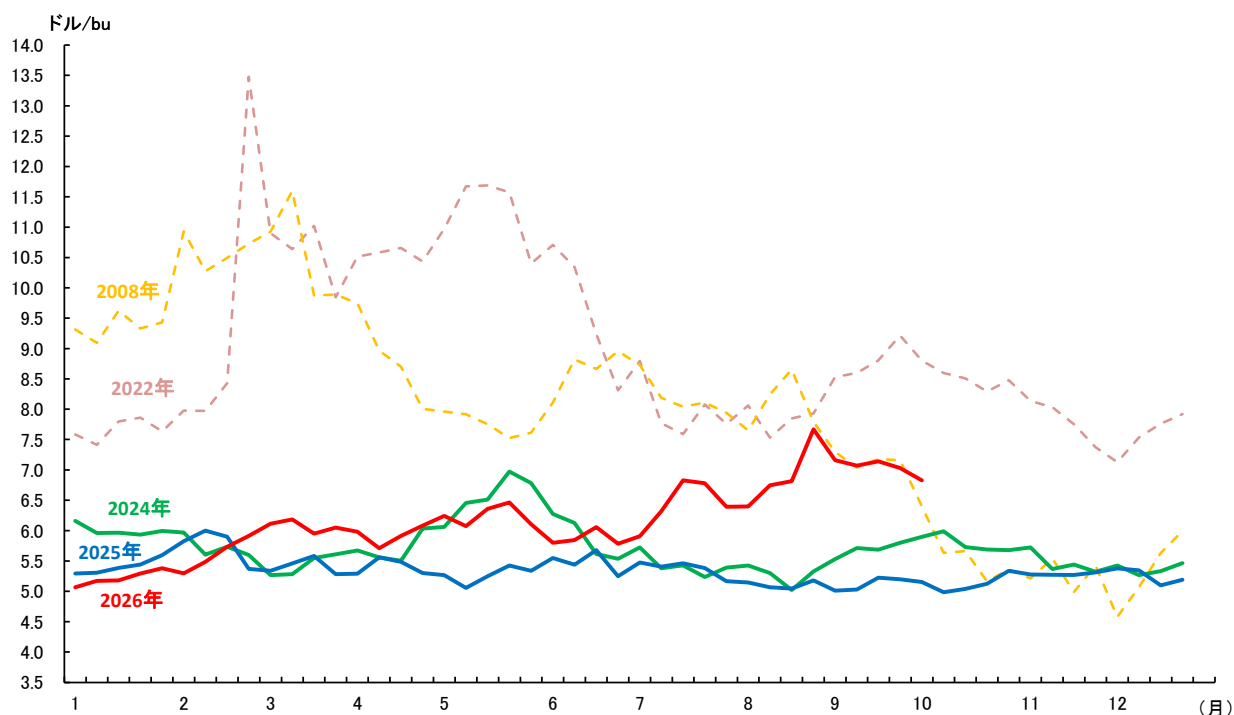
(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

【1月～6月】1月から3月末にかけ、米国やロシアの寒波による冬小麦の作柄に対する懸念、中東情勢や米国の冬小麦生産地域の乾燥懸念等を受けて6ドル/bu 台前半まで値を上げた。4月に入り、米国の冬小麦生産地域の降雨等を受けて5ドル/bu 半ば近くまで値を下げたものの、5月19日にかけ、同地域の乾燥、堅調な需要、5月の米国農務省需給報告における2026/27年度の小麦生産量減少見通し、中国の農産物購入合意報道等を受けて6ドル/bu 台後半まで値を上げた。6月末にかけ、原油価格の下落、冬小麦の収穫開始・進展等を受けて5ドル/bu 台後半まで値を下げた。

【7月以降】7月に入り、米国の高温乾燥とフランスの熱波による作柄に対する懸念、ロシアとウクライナの対立激化等を受けて7ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、急騰による売り等を受けて値を下げ、7月末現在、6ドル/bu 台半ばで推移。

8月に入り、原油価格の下落、米国産春小麦の作柄改善等を受けて6ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、黒海における混乱による供給懸念等を受けて値を上げ、8月末現在、7ドル/bu 台半ばで推移。

9月に入り、ロシア・ウクライナ和平への期待、とうもろこし価格の下落等を受けて値を下げ、9月末現在、6ドル/bu 台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.98 ドル/bu（前年同時期の価格：4.19 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2026年10月第1週末のセツルメント価格】

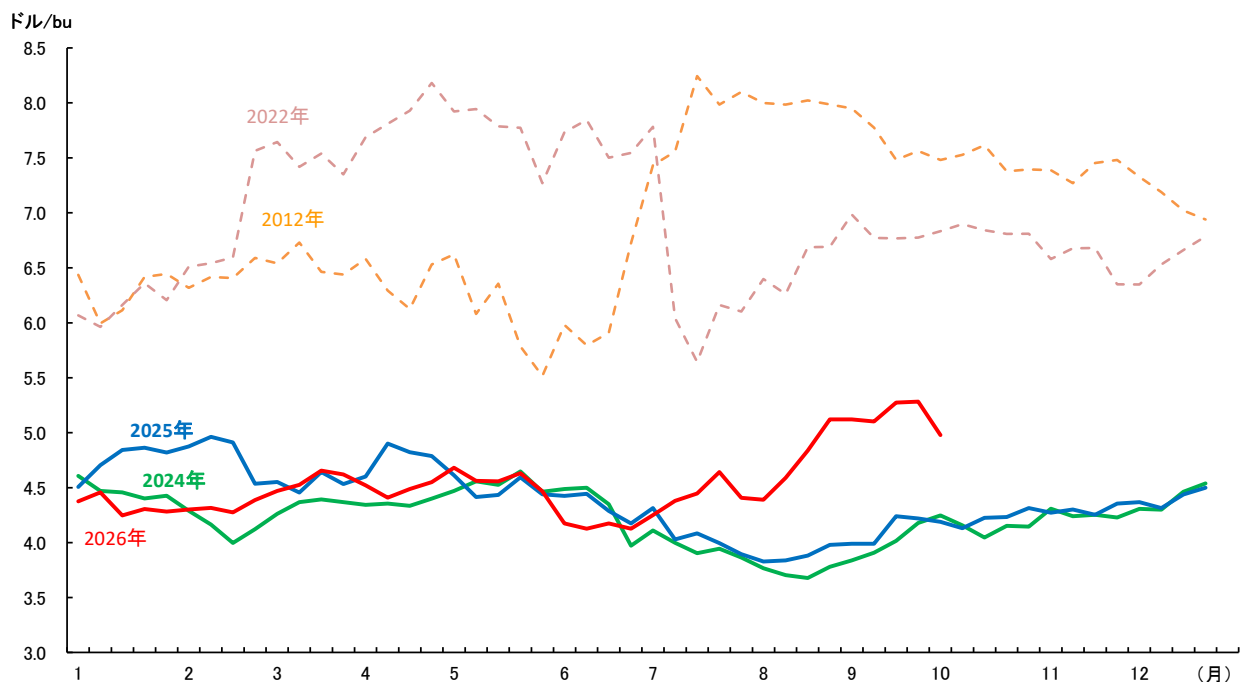
（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012年8月21日)）

【1月～6月】1月に入り、米国農務省需給報告で米国のとうもろこし生産量が上方修正されたこと等を受けて4ドル/bu台前半まで値を下げたものの、3月19日にかけて、米国産の堅調な輸出、中東情勢への懸念、資材価格高騰による米国の作付面積減少予測等を受けて4ドル/bu台後半まで値を上げた。4月13日にかけて、イランへの攻撃延期等を受けて4ドル/bu台半ば値を下げたものの、5月18日にかけて、米国の過剰な降雨による作付遅延懸念、中国の農産物購入合意報道、小麦価格の上昇等を受けて4ドル/bu台後半まで値を上げた。6月末にかけて、原油価格の下落、米国の生育に適した天候等を受けて4ドル/bu台前半まで値を下げた。

【7月以降】7月に入り、米国の高温乾燥とフランスの熱波による作柄に対する懸念、ロシアとウクライナの対立激化等を受けて値を上げ、7月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

8月に入り、米国農務省需給報告で米国の2026/27年度の期末在庫量が市場予想を下回ったこと、黒海における混乱による供給懸念、米国の作柄悪化等を受けて値を上げ、8月末現在、5ドル/bu台前半で推移。

9月に入り、米中首脳会談を受けた中国の需要拡大期待、降雨による米国の収穫遅延等を受けて5ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、米国の収穫進展、9月1日の在庫量が市場予測を上回ったこと等を受けて値を下げ、9月末現在、5ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コメ：485 ドル/トン（前年同時期の価格：377 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2026 年 10 月第 1 水曜日の FOB 価格】

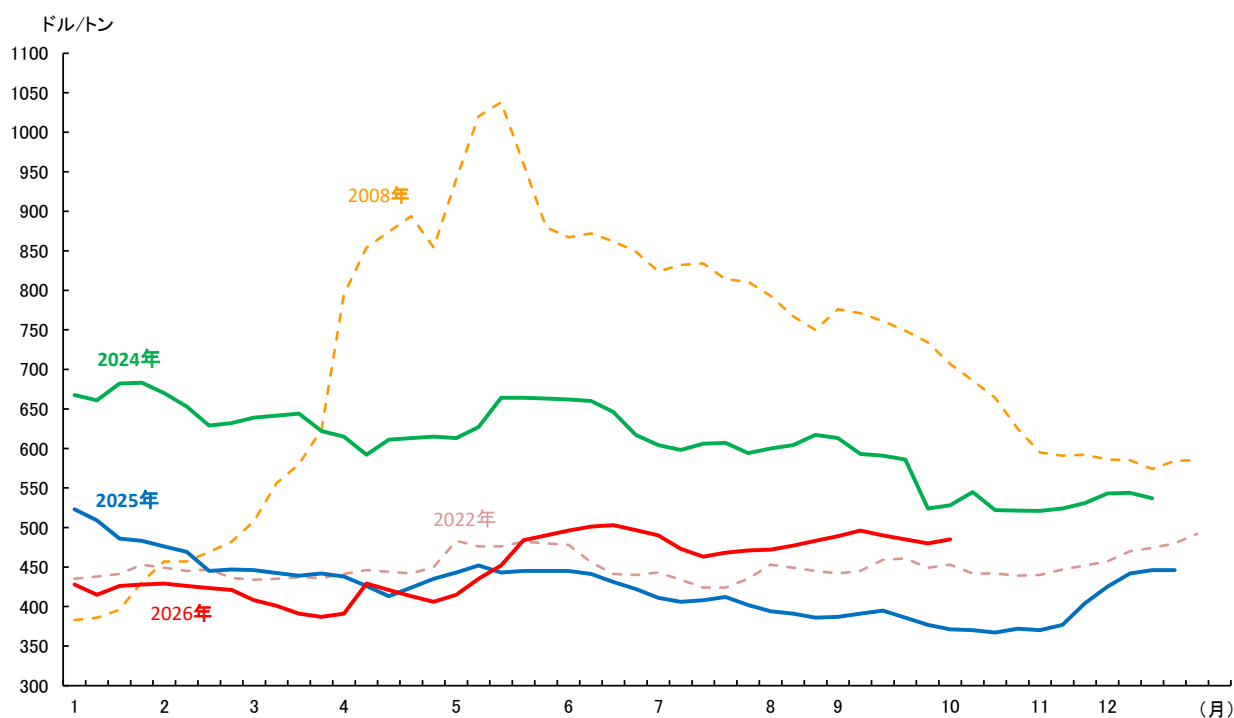
（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

【1月～6月】1月から3月25日にかけ世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて 380 ドル/トン台後半まで値を下げた。4月に入り、中東での紛争による燃料費の高騰等を受けて 420 ドル/トン台後半まで大きく値を上げたものの、米国農務省需給報告でタイの生産量が上方修正されたことやタイ米に対する需要減少等を受けて4月末現在、400 ドル/トン台半ばまで値を下げた。6月末にかけ、中東での紛争による燃料費の高騰、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受けて 500 ドル/トン台前半まで値を上げた。

【7月以降】7月に入り、エルニーニョ現象の予測を受けた東南アジア諸国の備蓄需要が落ち着いたことを受けて 460 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、タイバーツ高等を受けて値を上げ、7月末現在、470 ドル/トン台前半で推移。

8月に入り、アジア及びアフリカからの需要やタイバーツ高等を受けて値を上げ、8月末現在、480 ドル/トン台前半で推移。

9月に入り、タイバーツ高等を受けて 490 ドル/トン半ばまで値を上げたものの、需要の低迷、タイバーツ安等を受けて値を下げ、9月末現在、480 ドル/トン台で推移。



● 大 豆：12.78 ドル/bu（前年同時期の価格：10.18 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 10 月第 1 週末のセツルメント価格】

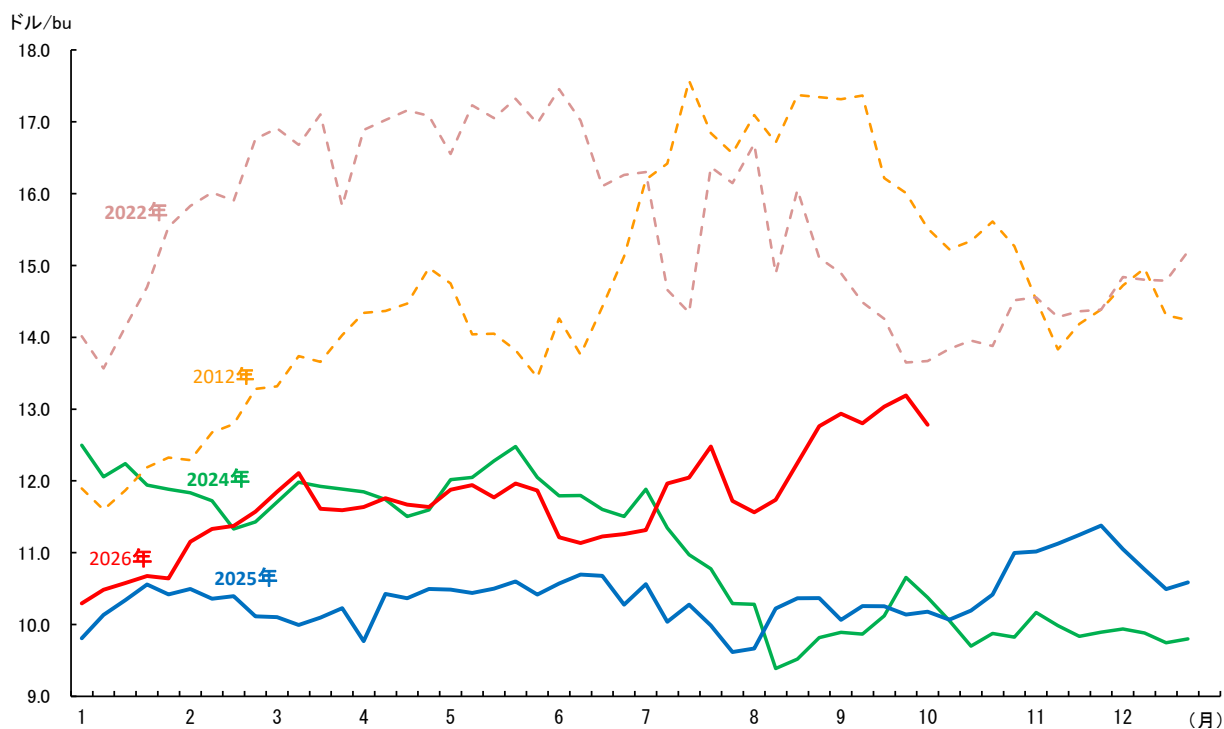
（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日)）

【1月～6月】1月から3月12日にかけて、中国の米国産大豆需要に対する期待、アルゼンチンの乾燥懸念、中東情勢への懸念等を受けて 12 ドル/bu 台前半まで値を上げた。その後、米中首脳会談延期による中国の米国産大豆の追加購入期待後退等を受けて 11 ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、5月13日にかけて、原油価格の上昇、5月の米国農務省需給報告で 2026/27 年度の米国の期末在庫量が市場予測を下回ったこと、中国の農産物購入期待等を受けて 12 ドル/bu 台前半まで値を上げた。6月末にかけて、米国の生育に適した天候や原油価格の下落等を受けて 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【7月以降】7月に入り、米国の高温乾燥による作柄に対する懸念、中国の大量買付け、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が市場予測を下回ったこと等を受けて 12 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国の降雨予報等を受けて値を下げ、7月末現在、11 ドル/bu 台後半で推移。

8月に入り、原油価格の下落、米国の降雨等を受けて 11 ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、中国による買付け、作柄の悪化、原油価格の上昇等を受けて値を上げ、8月末現在、12 ドル/bu 後半で推移。

9月に入り、中国による買付け、米中首脳会談を受けた中国の需要拡大期待、降雨による米国の収穫遅延等を受けて 13 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、中国が米国産大豆の輸入関税を据え置いたこと等を受けて値を下げ、9月末現在、12 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
108.99	106.73	109.89	131.57	140.59	151.59	156.49	151.96	149.18	144.39	144.75
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
144.50	146.71	147.67	147.94	151.28	155.12	155.88	156.71	155.07	158.64	159.28
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月
158.34	160.71	162.55	158.74	156.41						

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
45.01	38.28	65.79	60.71	48.61	50.33	40.33	40.41	42.37	43.29	43.93
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
45.30	51.06	50.44	53.84	50.87	51.05	47.68	46.46	49.14	53.11	54.16
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月
60.07	56.89	59.71	60.20	60.93						

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日の価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

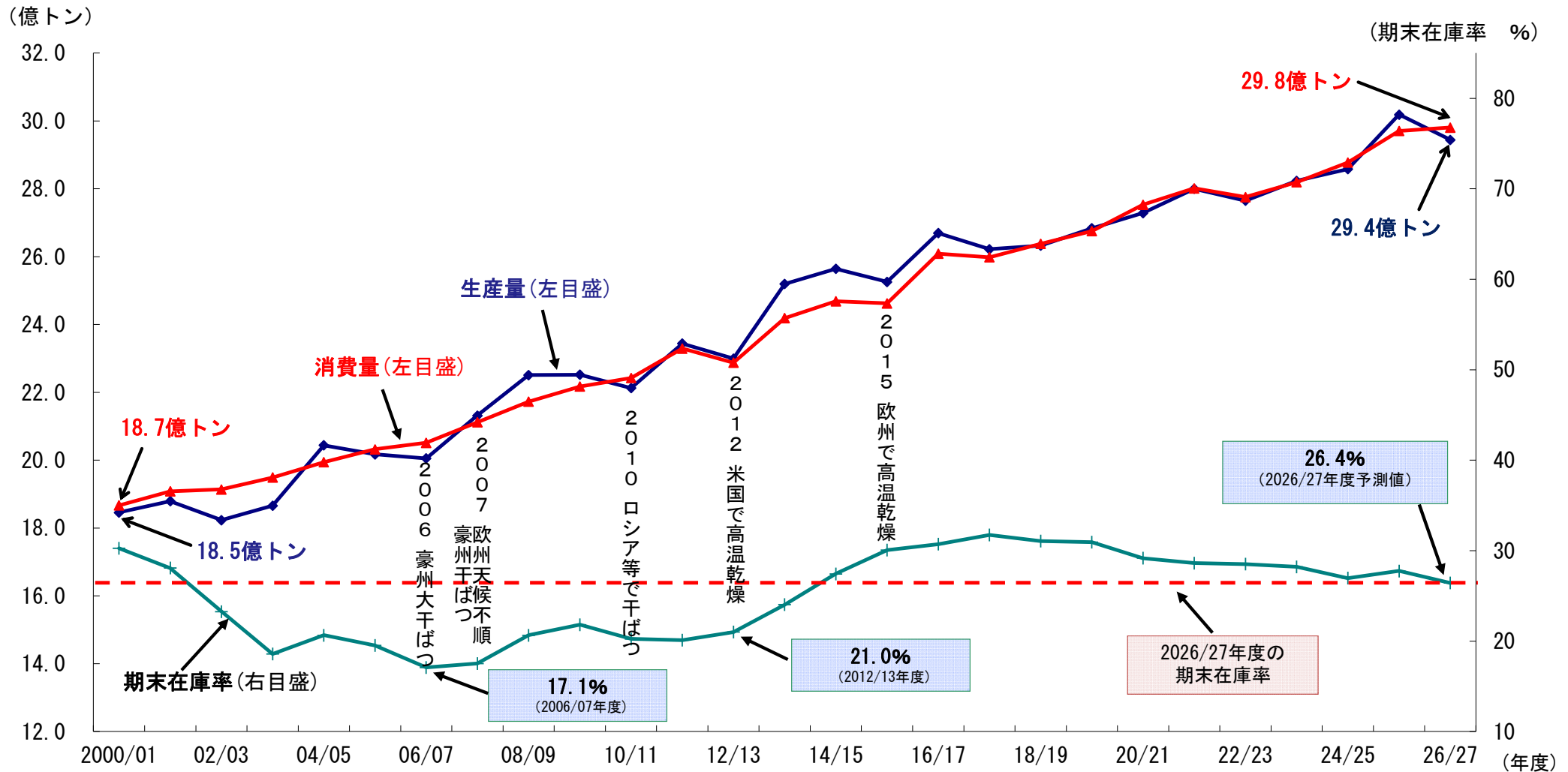
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
57.04	39.34	68.08	94.33	77.61	76.63	75.74	71.53	68.24	63.54	62.17
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
68.17	68.39	64.86	63.96	60.89	60.06	57.97	60.04	64.51	91.38	100.32
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月
102.13	84.81	80.46	83.90	97.31						

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の月次データ。また、年別の2024年以降は同Reportの年次データ。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.4%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2026)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。